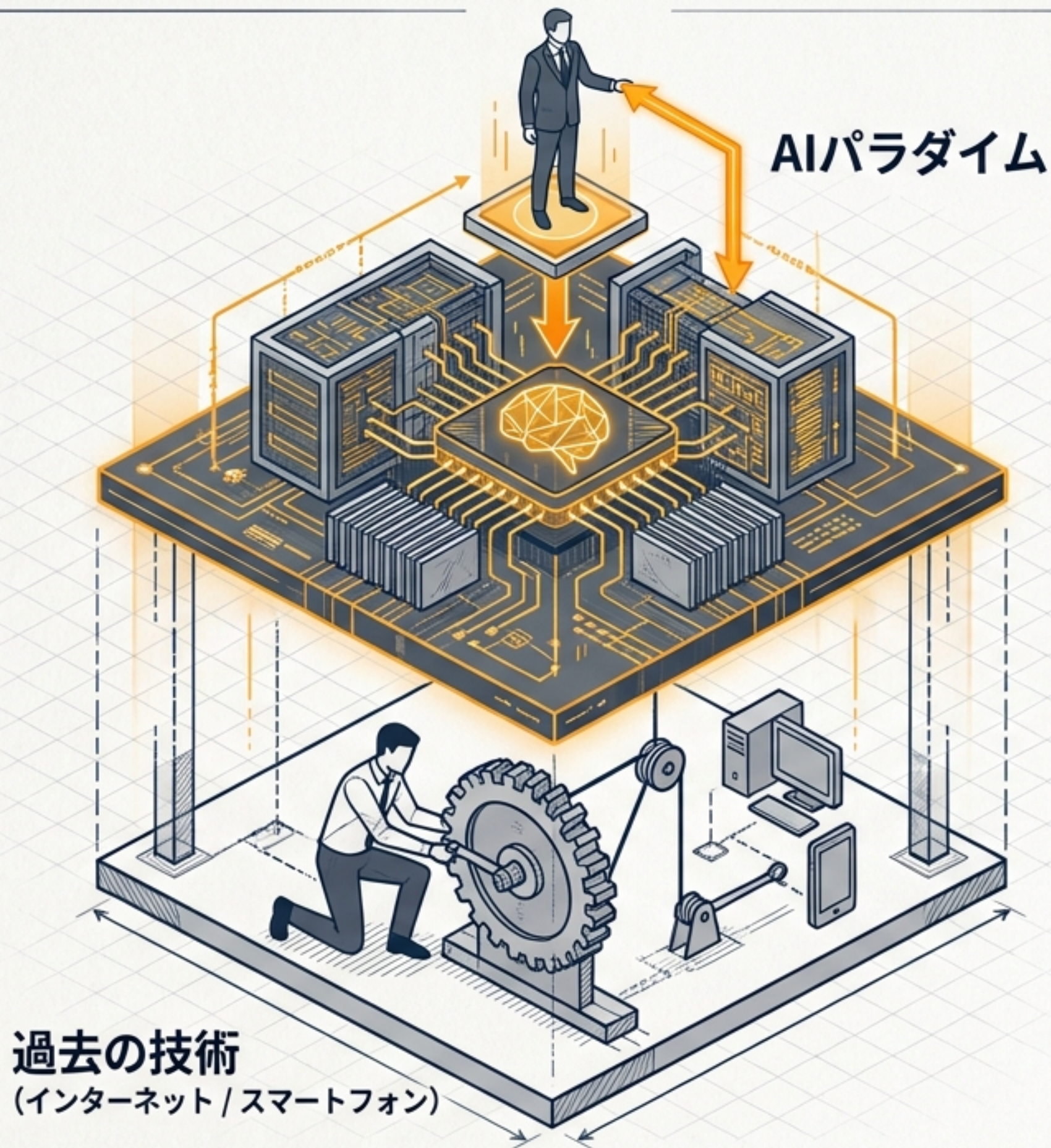
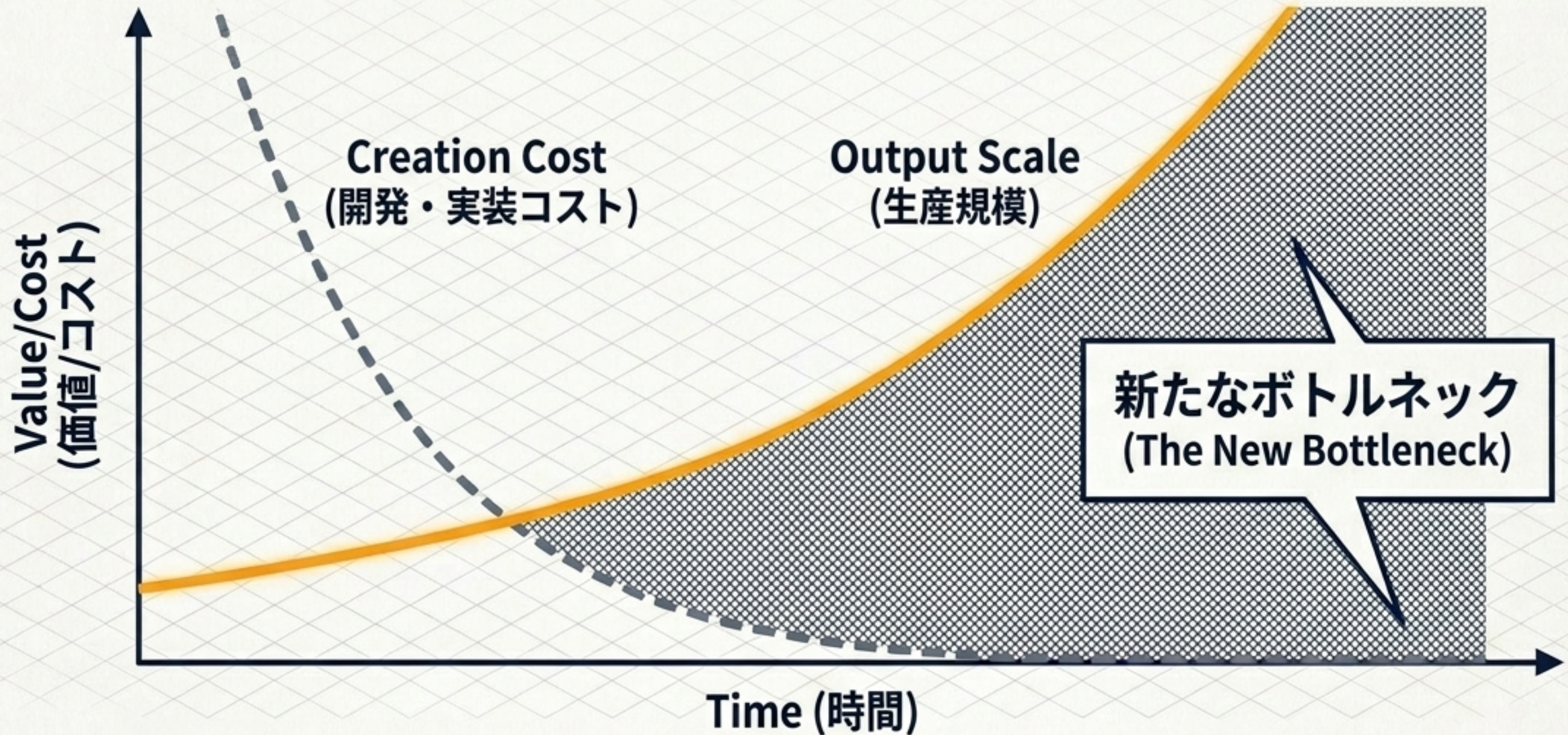


AIパラダイムシフトと新経済の構造

資本、労働、ビジネスモデルの不可逆的な転換



- 過去の技術（インターネット、スマートフォン）は「人間が使用するツール」の進化である。
- AIは「ツールを使用する側（人間の知的プロセス）」そのものの代替・拡張である。
- 影響の規模と速度は過去の革命を根本的に凌駕し、あらゆる産業構造を再定義する。

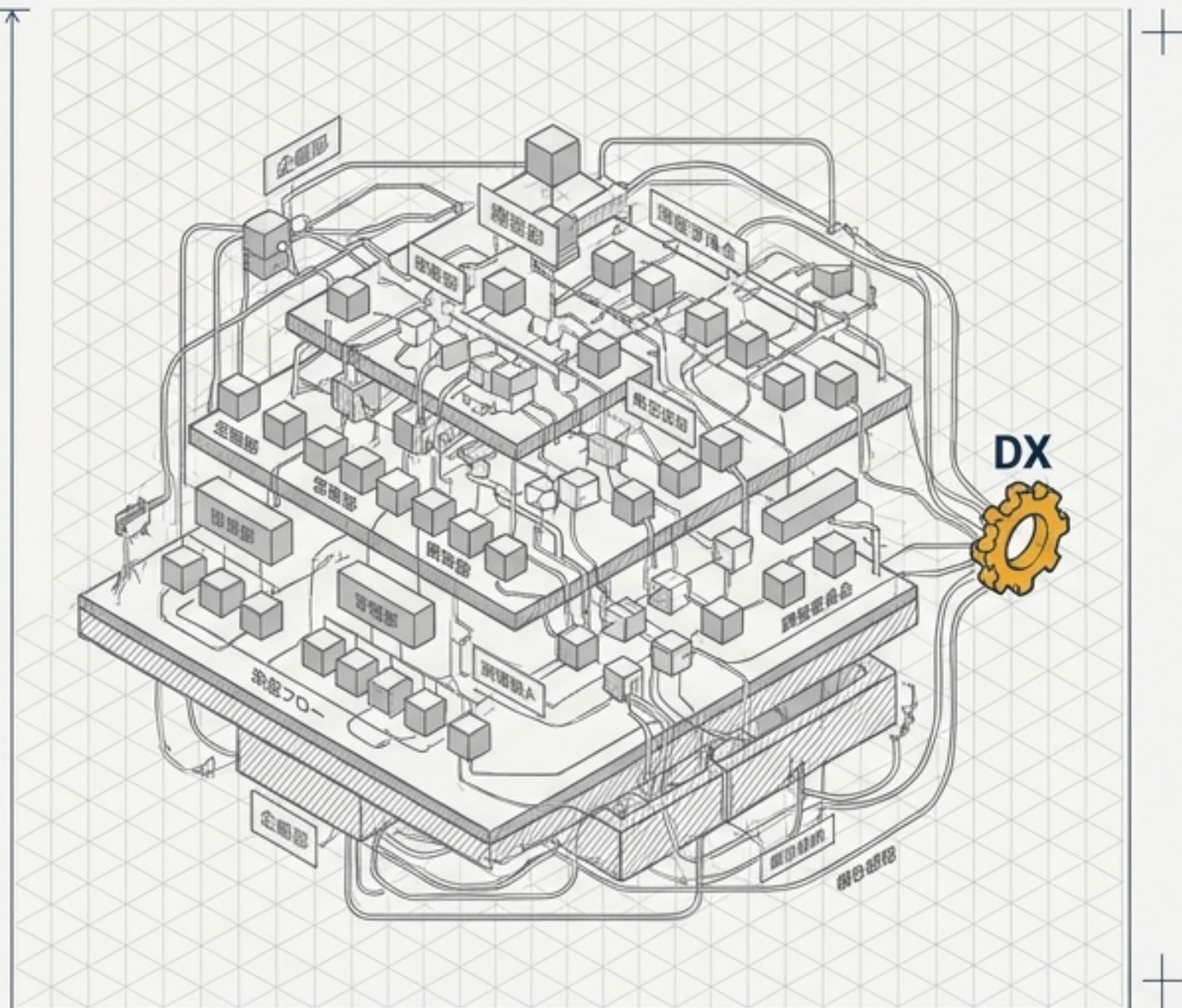


ソフトウェアの開発・実装コストは限りなくゼロに近づく。

労働の価値は「コードを書くこと (実作業)」から「AIに指示を出し、検証・統合すること (ディレクション)」へ完全に移行する。

経済価値の源泉は、開発力そのものから「新たなボトルネックの解消」へと移動する。

誤った認識 (The Illusion)



【誤った認識】

既存企業がデジタル機能を取り入れ、業務効率化を図ること。

真の構造 (The Reality)

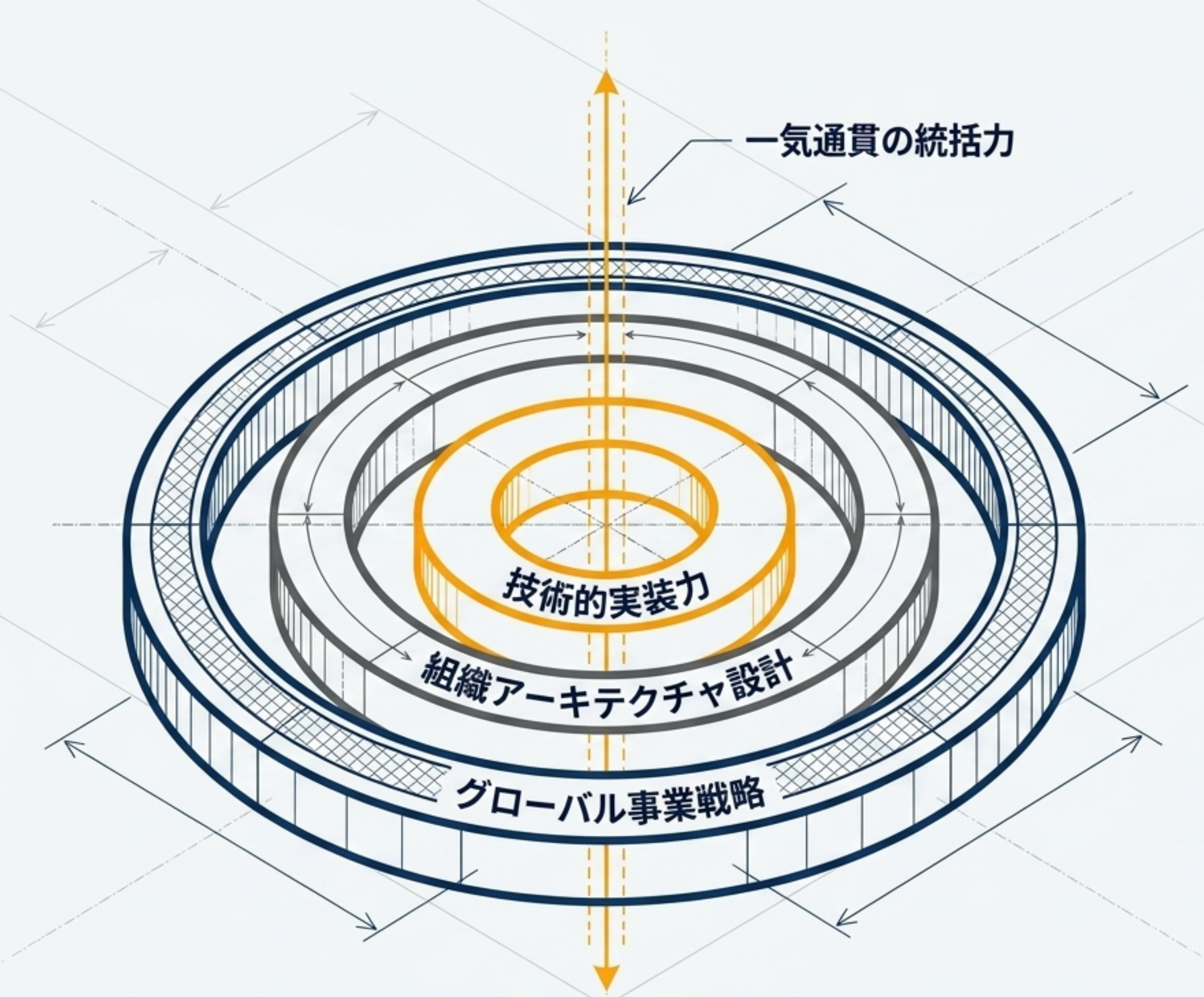


【真の構造】

圧倒的な少人数とAIを使いこなす「AIネイティブ企業」が、コスト優位性とスピードによって既存産業を破壊・代替することである。

レガシーSaaSモデル (Legacy SaaS)	AIネイティブモデル (AI-Native)
IT予算の獲得	人件費・事業予算の代替
ライセンス制 / パーシート課金	成果報酬制
業務プロセスの提供	売上向上・コスト削減への 直接コミット

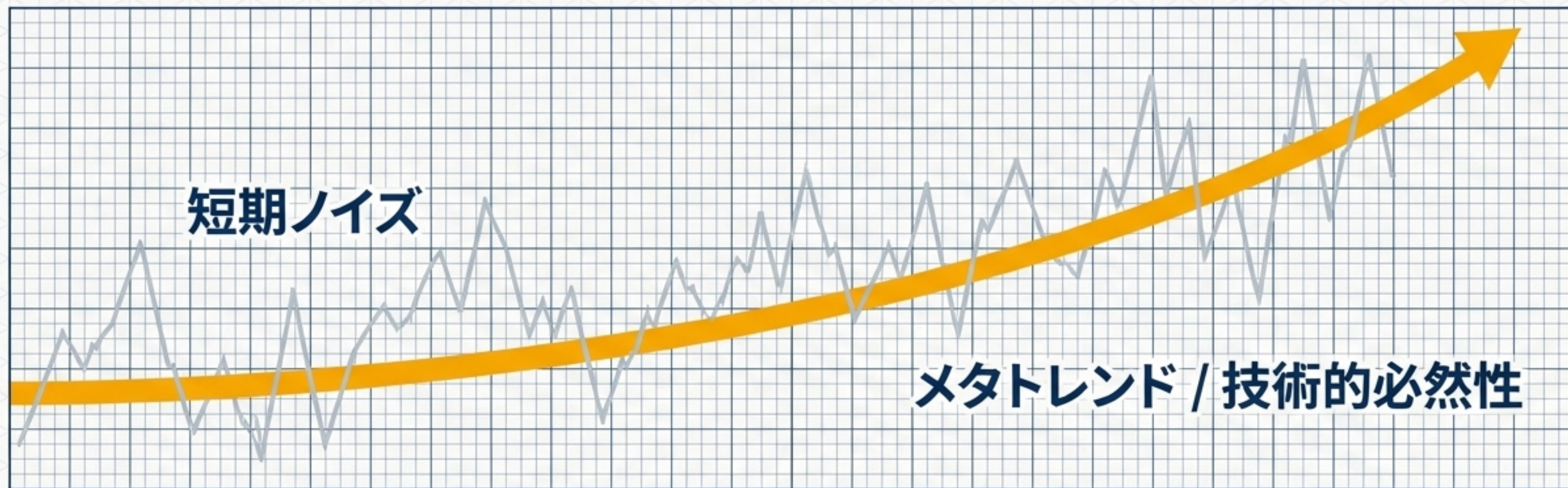
AI企業は企業のIT予算ではなく、人件費・事業予算を直接代替する。
固定費から成果報酬への転換が、次世代ビジネスモデルの絶対的な前提となる。



テック企業の競争力は、創業者の技術的バックグラウンドと直結する。

組織構造は、ソフトウェアのアーキテクチャと同様に設計されるべきである。

微細な技術的実装からグローバルな事業数値まで、すべての階層を高い解像度で把握・統合できるリーダーシップのみがスケールを実現する。

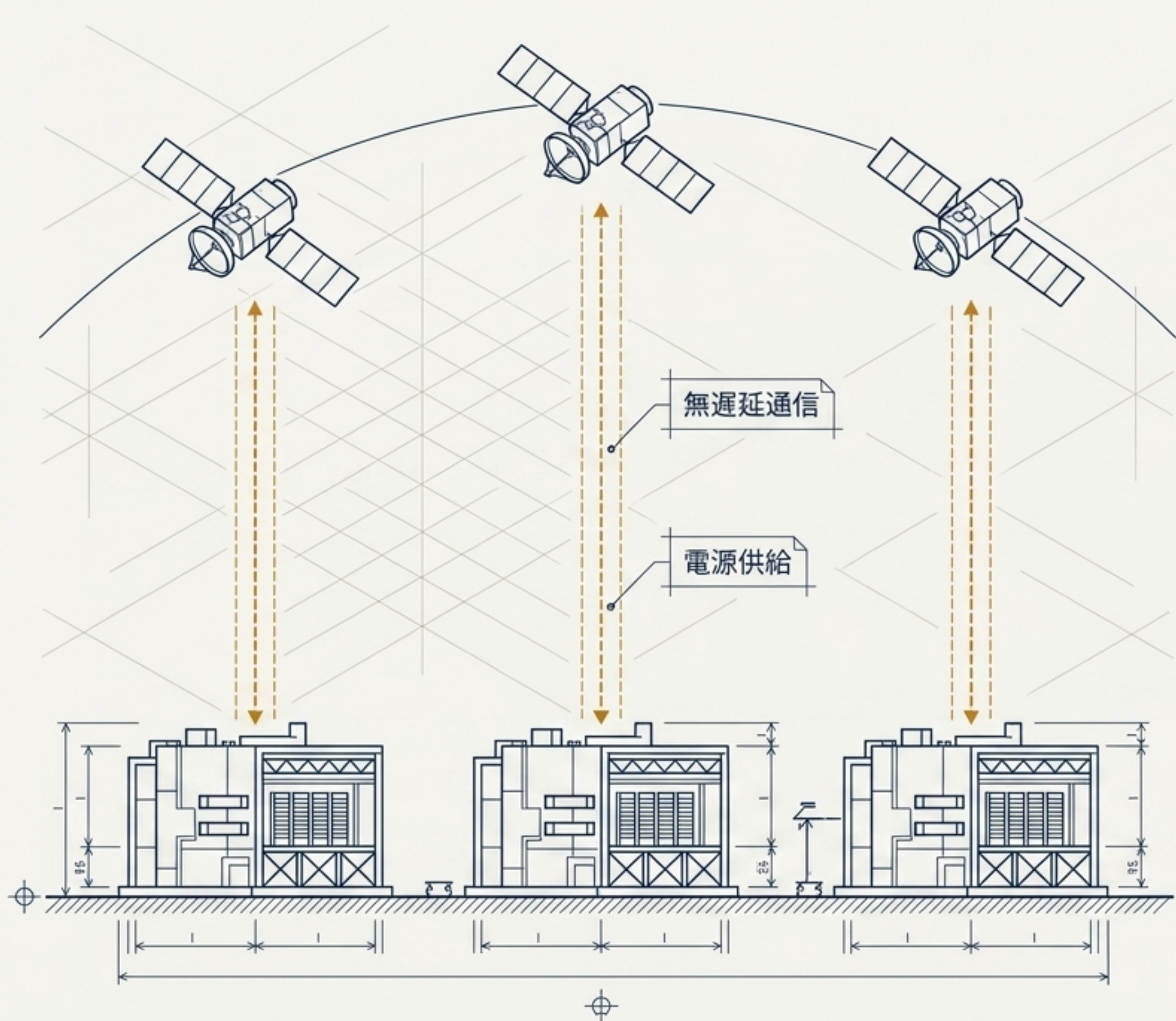


PANEL 1

短期的な地政学リスクやマクロ経済のノイズを完全に排除し、10~20年単位の「技術的必然性」のみに焦点を当てる。

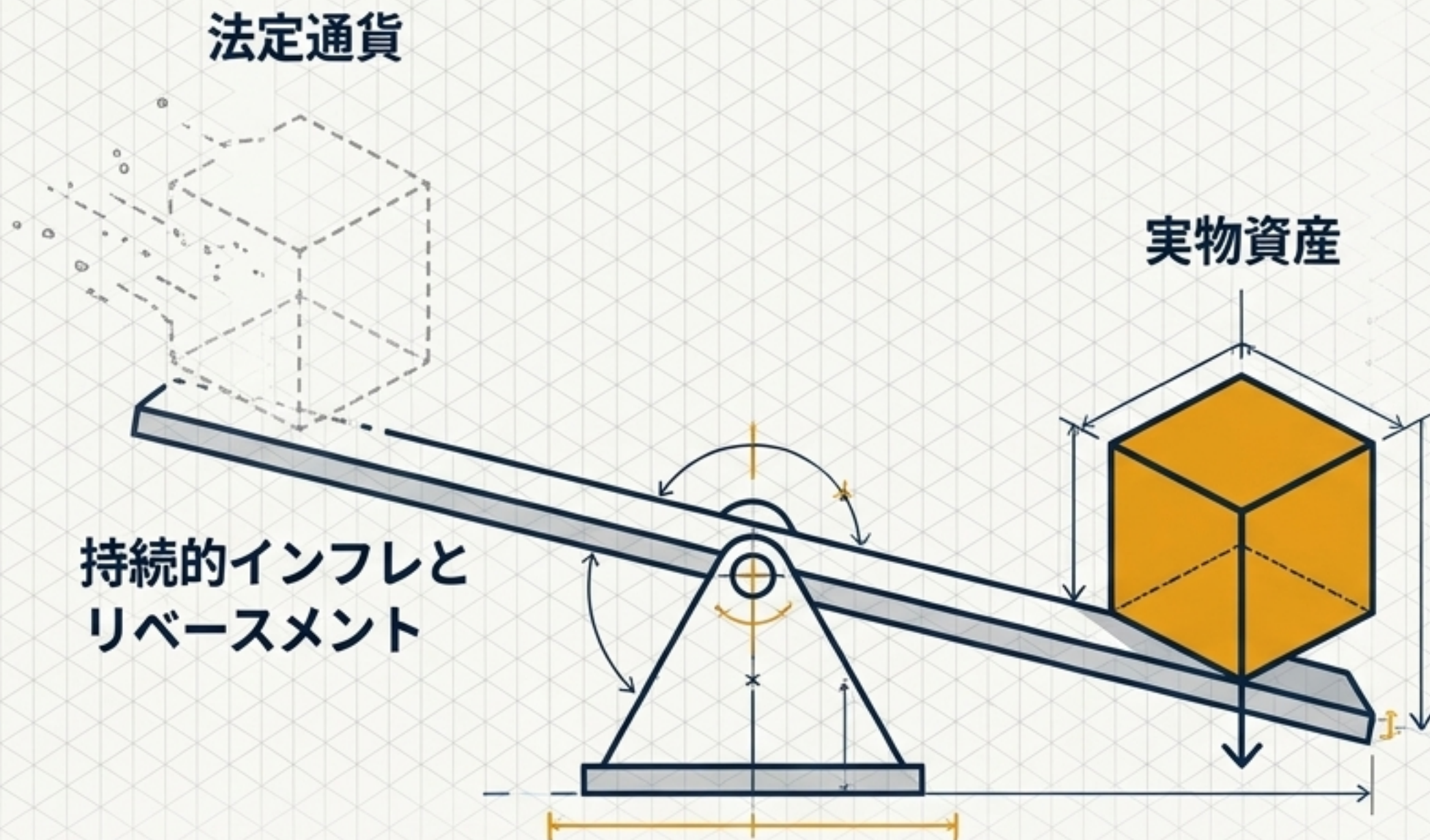
PANEL 2

時代を牽引するメガトレンドにおいて、インフラレベルのプラットフォームを形成する企業を永久保有することが基本戦略となる。

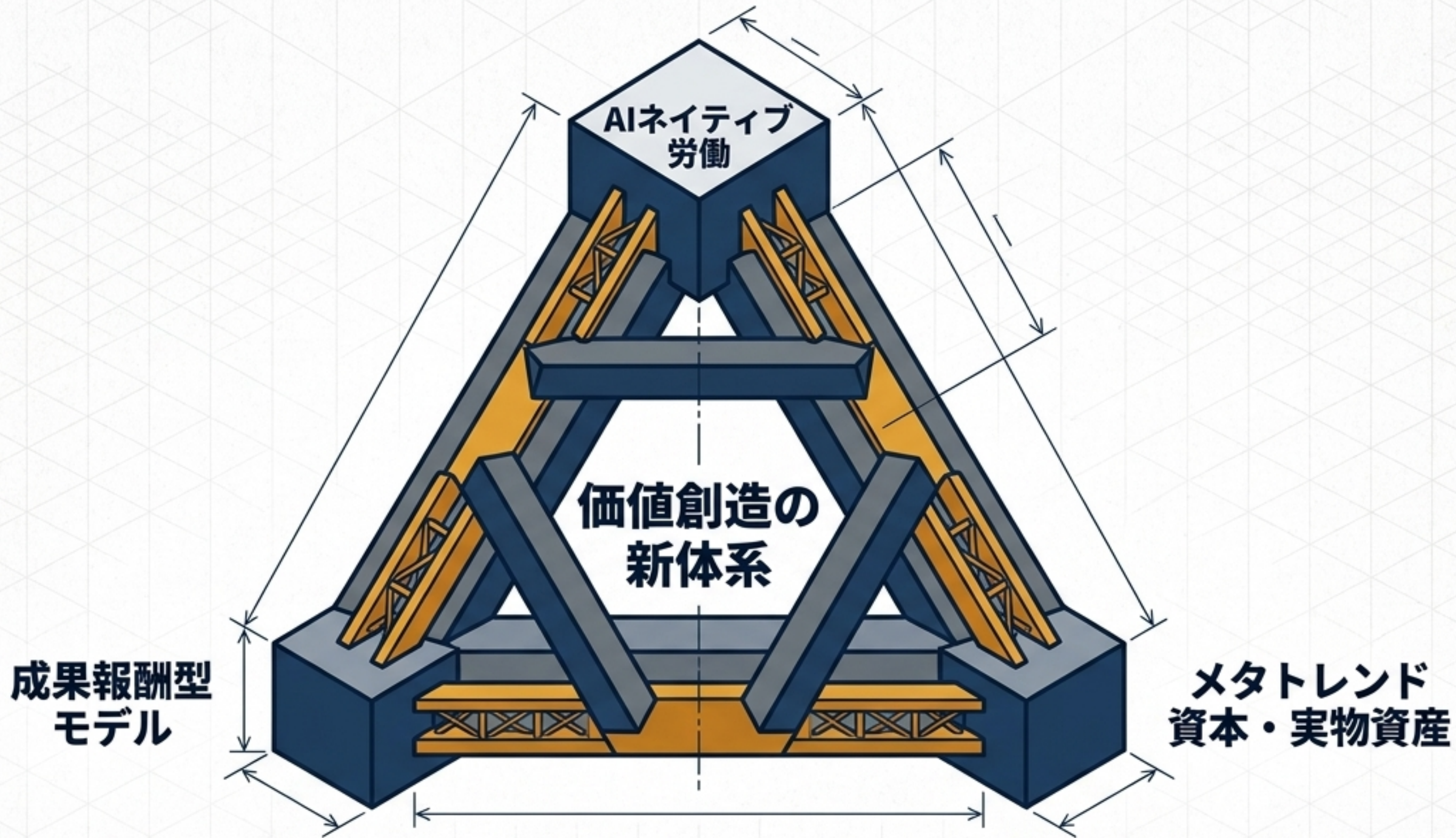


宇宙開発の本質はロケットの打ち上げではなく、地球規模の通信インフラの構築と、AIデータセンターの運用基盤確保にある。

新たなテクノロジーの覇権は、物理的なインフラストラクチャー（電源・通信のボトルネック解消）の制圧から始まる。



持続的なインフレーションと法定通貨の価値下落（リベースメント）は不可避な構造である。購買力を保全するための最適解は、ゴールド（代替通貨）や優良な現物不動産・REIT（インフレを直接価格に転嫁できる資産）への資本再配置である。



AIパラダイムシフトは、一時的なブームではなく社会基盤の完全な刷新である。

企業は労働の定義を再構築し、ビジネスの前提を固定費から成果報酬型へと転換せざるを得ない。

資本は短期的なノイズを超え、不可逆的な技術インフラと、本質的価値を持つ実物資産へと集中する。